



TITLE:

博物学の世界：平成25年度京都大学図書館機構貴重書公開展示

AUTHOR(S):

CITATION:

博物学の世界：平成25年度京都大学図書館機構貴重書公開展示. 2013

ISSUE DATE:

2013-10-15

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/179386>

RIGHT:



平成25年度

京都大学図書館機構貴重書公開展示

博物学の世界

展示期間／平成25年10月29日（火）～平成25年11月10日（日）

会 場／京都大学百周年時計台記念館歴史展示室内 企画展示室

主 催／京都大学図書館機構

ごあいさつ

京都大学図書館機構では、過去の実績を踏まえ、2009年以降2年に1回秋季に展示会を開催しております。その主旨は、京都大学が所蔵する貴重な資料を学内外に公開し、広く市民の方々にも親しんで頂く機会を持っていただくことにあります。今年度図書館機構では、2011年度から実施して参りました貴重資料修復事業により修復が完成し、公開が可能になった資料の中から「博物学」に関する資料を厳選して展示会を開催することになりました。同時に、湯川秀樹博士旧蔵書より、自筆書き込みのある書籍と著書2点を合わせて展示させて頂くことになりました。修復なった資料と共にこれらの書籍の展示を楽しんで頂ければ幸いです。

本展示会の開催に当たり、監修を京都大学総合博物館・永益英敏准教授にお願い致しました。この場を借りてご協力とご努力に御礼申し上げます。また、会場として京都大学大学文書館の企画展示室をお借り致しました。ここでは他に京都大学の歴史展示と共に、各部局で研究用に所蔵された貴重書も合わせてご覧頂けます。この機会に是非ともご覧下さい。

最後になりましたが、各展示項目の解説は、それぞれの資料にゆかりの教員にお願い致しました。改めて御礼申し上げます。

では、どうぞ展覧会をお楽しみ下さい。

平成25年10月 京都大学図書館機構長 引原 隆士

はじめに

平成25年度京都大学図書館機構公開展示会は「博物学の世界」と題し、平成23～24年度に図書館機構が修復を行った「博物学」関連の貴重資料15点のうちから選ばれた洋書籍とそれに関連する資料が展示されます。

博物学とは動物・植物・鉱物など主として自然物の多様性を研究し記述する学問です。ヨーロッパでは大航海時代にもたらされた数多くの新しい産物に刺激され、さらに印刷術の発達によりたくさんの図版を含む美しい博物誌が編まれました。もちろん、その中には日本からもたらされた動植物についての報告もあります。またこれらの書物が江戸時代の日本に輸入され、本草学や蘭学に影響を与えてもいます。

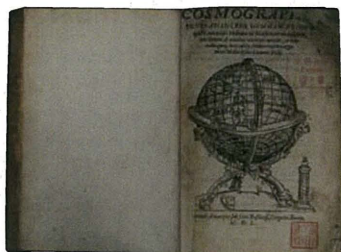
時代は16世紀から18世紀。自然哲学から自然科学へ、博物学もまた近代科学へと変わろうとする頃です。今回展示されるのは、オランダ領インド時代の植物を迫力ある大判の銅版画で記録した『マラバル植物園』(1678-1703)、ペルシア、日本を訪れたケンペルの旅行記『廻国奇観』(1712)、著名なビュフォンの大著『博物誌』(1785-1791)など狭い意味での博物学書のほか、実証的な地質調査法が評価されたウェルナー『鉱脈の形成についての新説』(1791)、そして天動説時代の宇宙観や世界地理を書いた『ペーテル・アピアン天文・世界地理』(1550)など、より広い範囲を含みます。

どの研究分野であろうと、原典にあたることの重要さはいまでもないことです。このような入手困難で貴重な書籍が京都大学にあり、研究に利用できることはきわめて幸運なことであるといえます。

これらの古い洋書籍の多くは革による装丁が施されており、我が国の高温多湿の環境のもとでは劣化が著しく、手に取ることも困難なものがありました。今回の修復でよみがえった貴重資料の姿をぜひご覧ください。

京都大学総合博物館 准教授 永益 英敏

天文地理と湯川博士



Gemma Frisius "Cosmographia Petri Apiani"

ゲンマ・フリシウス『ペーテル・アピアン天文・世界地理』

[ラテン語]

Antwerp : Gregorio Bontio, 1550 226×160×15 1冊

所蔵：基礎物理学研究所湯川記念館史料室 (84078907)

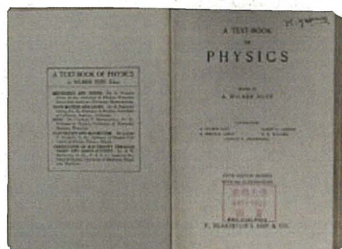
1524年に南ドイツで出版されたアピアン（1495-1552）の天動説の天文と地理のコスモグラフィアは、各地で印刷された。1539年にフリシウス（1508-1555）が加筆版を刊行してから、ますます評価が高まった。ジパング（日本）島・ジパング国の名もある。天文計算回転チャートが4つついている。地質学者・地理学者で京大教授を務めた小川琢治（1870-1941）が入手し、子息の湯川秀樹（1907-1981）の蔵書になり、湯川の没後、基礎物理学研究所に寄贈された。



大熊座，小熊座からの
北極星の位置の求め方



天文計算回転
チャート (volvelle)



Duff, A. Wilmer "A Text-Book of Physics" 5th ed.

Philadelphia : Blakiston, 1921 212×148×42 1冊

所蔵：基礎物理学研究所湯川記念館史料室 (84078921)

物理教育への貢献により1938年にエルステッド賞を受賞したダフ（1864-1951）の代表的著作。初版は1908年。30年にわたり物理学の代表的教科書として版を重ねた。湯川の第三高校2年（17歳，1924年）の時の教科書。非常に多数の書き込みがあり，熟読し章末にある多数の問題を解いたことが分かる。後年に，研究者になってからも，確かめたいことが出ると，座右においた本書を手にした。（挟み込み紙片は，湯川自身が後にはさんだもの）。



湯川秀樹『存在の理法』

東京：岩波書店，1943 216×158×18 1冊

所蔵：基礎物理学研究所湯川記念館史料室 (2859239)

多くの著作を残した湯川の第3の著書。中間子論（1949年ノーベル賞受賞の対象）の一連の展開のあと，1940-1943年に発表した論文，対談，講演をまとめてある。本書の中心で一番長い「場の理論の基礎に就いて」は，物理学の基礎に含まれる困難を解決するためにはどうすればよいかを模索し，岩波の『科学』に連載した論文。これにヒントを得て，朝永振一郎（1906-1979）がくりこみ理論を作り，ノーベル賞（1965年）を受賞した。

地質鉱物学



Faujas de Saint-Fond, Barthélemy "Mineralogie der Vulkane, oder: Beschreibung aller durch die unterirdischen Feuerausbrüche hervorbrachter oder ausgeworfener Substanzen"

フォジャ・ドゥ・サンフォン『火山の鉱物学』[ドイツ語]

原タイトル: Minéralogie des volcans

Leipzig: Schwickertschen, 1786

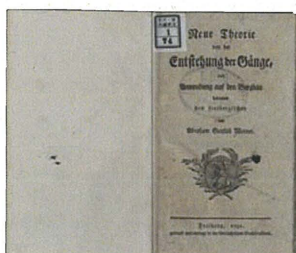
x, 342 p., 3 folded leaves of plates: ill.; 20 cm 1冊

所蔵: 理学部中央図書室 (貴||5||386) (234547)

著者フォジャ・ドゥ・サンフォン(1741-1819)はフランスの地質学者・博物学者で、旅行家でもあった。本書をはじめ火山岩の研究に先駆的な業績を残し、鉱石の発見など実業的な成果も多い。特に、火山岩の一種「玄武岩」が示す「柱状節理」について、その成因を正しく解明したことで知られる。本書は火山活動に伴って形成される鉱物に関する研究書であるが、添付されている3図はいずれも玄武岩の柱状節理に関するものになっており、サンフォンの深い興味のほどが感じられる。1784年にはじめフランス語で著されたものがドイツ語に訳されたもの。



柱状節理



Werner, Abraham Gottlob "Neue Theorie von der Entstehung der Gänge: mit Anwendung auf den Bergbau besonders den freibergischen"

ウエルナー『鉱脈の形成についての新説』[ドイツ語]

Freiberg: Gedruckt und verlegt in der Gerlachischen Buchdruckerei, 1791

xxxx, 256 p.; 18 cm 1冊

所蔵: 理学部中央図書室 (貴||1||74) (277992)

今日では、岩石に、①マグマが冷え固まった「火成岩」、②既存の岩石が分解した礫・砂・泥や生物遺骸などが運搬され堆積して形成された「堆積岩」、③火成岩や堆積岩が地下深所の圧力や高温で組織や構成鉱物が変成された「変成岩」があることは地球科学の常識となっているが、18世紀までは、「すべての岩石は始原海洋中に析出・沈殿してできたものか、その二次的堆積物である」と考える『水成説』も盛んに論じられた。本書の著者ウエルナー(1749-1817)は水成説の推進者で、ドイツ・ザクセンのフライベルク鉱山学校で教鞭をとった。多くの弟子を惹きつけたカリスマ的な教育者であったという。本書は鉱脈の成因を水成説で説明するとともに、地質調査の方法なども詳細に説いた講義録形式の書物で、ウエルナーの数少ない著作として大変興味深いものである。

岩石の「水成説」は19世紀に火成岩の成因が正しく認識されるようになって退けられたが、ウエルナーがここで説いた地質調査法には現在も必須のテクニックが含まれている。例えば、地層を空間内で定義するために「走向」や「傾斜」を測定するよう教示していたり、複数の鉱脈が交差している場合には「切っているものが切られているものより新しい」と現象の新旧判断の方法を明示したりしている。水成説の正否にかかわらず、ウエルナーが高い評価を受け続けたのは、こうした確かな観察眼と実証的な教育研究スタイルが弟子たちに真に尊敬されていたためであろう。イラスト等の一切ない“地味”な一冊であるが、科学史上も重要な書籍である。



Forster, Johann Reinhold. “Beobachtungen und Wahrheiten nebst einigen Lehrsätzen : die einen hohen Grad von Wahrscheinlichkeit erhalten haben : als Stoff zur künftigen Entwerfen einer Theorie der Erde.”

フォースター『**観察と真理およびいくつかの定理**』〔ドイツ語〕

Hoffmann, Johann Christian. “Praktische und gründliche Anweisung auf eine leichte und wohlfeile Art gute Elektrisirmaschinen zu bauen, mit einem dazu neuerfundenen Reibzeug von gespanntem Taffet.”

ホフマン『**実用的かつ完全なる教授法のために**』〔ドイツ語〕

Leipzig : Breitkopf und Härtel ; Siegfried Lebrecht Crusius, 1798

85 p. ; 18 cm 1冊

所蔵 : 理学部中央図書室 (貴|2|209) (234142)

本書はライプツィヒの異なる出版社から共に1798年に発刊された2編を合本したものである。前者の著者フォースター (1729-1798) はドイツと英国で活躍した著名な博物学者・動物学者で、『観察と真理およびいくつかの定理』は彼の最晩年のエッセーとなった。後者のホフマンの『実用的かつ完全なる教授法のために』には発明品である実験装置の図が添えられている。本書は小品ながらドイツ学派の合理的、実証的な精神を感じさせる良書といえる。

ビュフォンの博物誌



Buffon, Georges Louis Leclerc, comte de, “Histoire naturelle, generale et particuliere”

ビュフォン『**一般と個別の博物誌**』〔フランス語〕

Aux Deux-Ponts : Chez Sanson & compagnie, 1785-1791

165×100×50-60 27冊

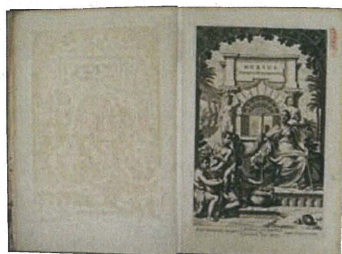
所蔵 : 医学図書館 (460||8||B 85) (394196)

フランスの博物学者ビュフォン (Buffon, Georges Louis Leclerc, comte de, 1707-1788) はパリの王立植物園長をつとめながら1749年から1767年にかけて『一般と個別の博物誌』を著した。出版当時はベストセラーとなり、のちの博物学や科学・思想全般にも大きく影響した。

本学所蔵 (元・医学部病理学教室蔵) のものは1785-1791年に刊行された版 (全54巻27冊) である。ビュフォンが亡くなる3年前から出版が始まり、ビュフォンへの賛辞と伝記が記されている第27冊目を除いて、円熟期のビュフォン自身が監修出版したものと考えられる。刊行された『博物誌』のうち、もっとも大部なものは1798-1808年刊行のSonnini版 (全127巻) であるが、初版 (全44巻) に比べて大きく改訂されている。本学所蔵版は、規模や内容が初版本に近く、もとの姿をより色濃く残していると考えられる。また、保存状態もよく、図も精密で色彩が美しく輝くようである。



植物学



Reede tot Drakestein, Hendrik van, "Hortus Indicus Malabaricus"
(Hendricum van Reede tot Draakestein)

ファン・レーデ『[インド] マラバル植物園』 [ラテン語]

Amsterdam : Joannis van Someren, et Joannis van Dyck, 1678-[1703]

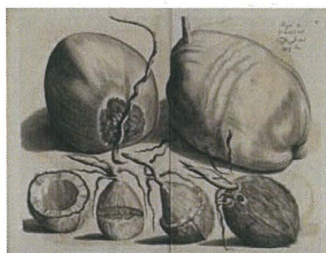
395×280×42-57 12冊

所蔵：理学研究科生物科学図書室 (XL||1224||2) (476084他)

現在のインド南西部ケララ州にあたるオランダ領マラバル(1661-1795)の知事であったオランダ人ファン・レーデ(1637-1691)がおおよそ30年を費やして編集した大著。12巻からなり、マラバル地方の植物とその利用についての記述が794の迫力ある銅版画と共に発表されている。本文はラテン語で書かれているが、植物名はラテン語、コンカンニ語、アラビア語、マラーヤラム語でも記録されている。アジア熱帯の植物に関する最初期の包括的な植物誌である。



総革装に金押しされたオランダ
東インド会社Vereenigde Oost-
Indische Compagnie (VOC)アムス
テルダム本社のロゴ。



ココヤシ



Dodoens, Rembert (Rembertus Dodonaeus) "Stirpium historiae
pemptades sex sive libri XXX"

ドドエンス『草木誌』 [ラテン語版第2版]

Antverpiæ : Ex Officina Plantiniana apud Balthasarem et Ioannem More-
tos, 1616 330×225×85 1冊

所蔵：理学研究科生物科学図書室 (EX||25) (366371)

オランダ人医師であり植物学者でもあったドドエンス(1518-1585)がフラマン語で著した『草木誌
Cruijdeboek』(1552-1554)は、数多くの図とわかりやすい記述により広く受け入れられ、増補・改訂を繰り返し
多くの言語に翻訳された。本書は1583年に出されたラテン語版の第2版(1616)である。日本には江戸時代にオラ
ンダ語版が輸入され、蘭学者、本草学者らの関心を集めた。獨度涅烏斯^{ドドネウス}(獨獨匿烏斯とも)の『和蘭陀本
草』、『遠西草木譜』、『獨度涅烏斯本草』などとよばれた。



Kaempfer, Engelbert (Engelbertus Kaempferus) “Amoenitates Exoticae”
ケンペル『廻国奇観』 [ラテン語]

Lemgoviae : Typis & Impensis Henrici Wilhelmi Meyeri, Aulæ Lippiacæ
Typographi, 1712 220×170×85 1冊

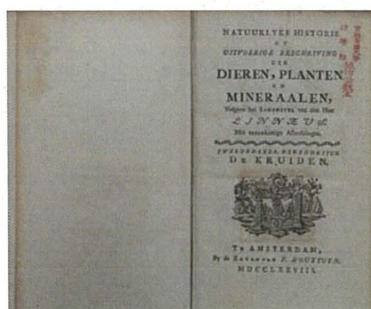
所蔵：理学研究科生物科学図書室 (EX||3) (492554)

ドイツ人の医師であったケンペル(1651-1716)は1683年スウェーデンがロシア、ペルシアへ派遣した使節団に秘書として随行し、その後、オランダ東インド会社の医師として勤務、1690-1692年には日本を訪れ将軍徳川綱吉にも謁見した。本書はラテン語で書かれ、その大部分はペルシアについての記述だが、すぐれた博物学者でもあったケンペルは本書『廻国奇観』第5部全部(pp.765-912)を「日本の植物」にあてている。ここには日本の植物の精確な図版26点が含まれている。



椿（ツバキ）の図

日本の植物の名前が漢字、ラテン名で書かれ、日本語の発音が大きな活字で示されている。中には詳細な記載と精確な図を伴うものがある。



Houttuyn, Maarten “Natuurlyke Historie of uitvoerige beschryving der dieren, planten en mineraalen, volgens het samenstel van den heer Linnaeus”

ハウトイン『自然史、またはリンネ氏の体系による動物、植物、鉱物の詳細な記述』(1761-1785) [オランダ語]

Amsterdam : Houttuyn, 1773-83 210×130×29-48 14冊

所蔵：理学研究科生物科学図書室 (EX||20) (318509)

アムステルダム（オランダ）の医師で博物学者のハウトイン(1720-1798)によるオランダ語の著作。動物18巻、植物14巻、鉱物5巻からなる大著で、リンネの分類体系と学名の二語名法を普及させることに貢献した。京都大学理学研究科生物科学図書室には植物部全14巻(1773-1783)が完全な形で収蔵されている。江戸時代に日本を訪れたスウェーデン人植物学者チュンベリーが著した『日本植物誌』(1784)よりも早く出版され、本書で学名が発表された日本の植物は30種以上に及ぶ。宇田川榕庵ら江戸時代の蘭学者、本草学者にも影響を与えた。

貴重資料修復事業による修復資料一覧（博物学）（平成23年度～平成24年度） ■ 展示会出展資料

- Cosmographia / Petri Apiani, per Gemmam Frisium. 1550（基礎物理学研究所湯川記念館史料室所蔵）
- Histoire naturelle, generale et particuliere / Georges Louis Leclerc comte de Buffon. 1785-1791（医学図書館所蔵）
- Remberti Dodonæi Mechliniensis Medici Cæsarei Stirpium historiarum pemptades sex, sive libri XXX : variè ab auctore, paullò ante mortem, aucti & emendati. 1616（理学研究科生物科学図書室所蔵）
- Pinax Theatri botanici Caspari Bauhini ... sive Index in Theophrasti, Dioscoridis, Plinii et botanicorum qui à seculo scripserunt opera: plantarum circiter sex millium ab ipsis exhibitarum nomina cum earundem synonymiis & differentiis methodicè secundum earum & genera & species proponens. Opus XL. annorum hactenus non editum summopere expetitum & ad auctores intelligendos plurimum faciens ... 1623.（理学研究科生物科学図書室所蔵）
- Hortus Indicus Malabaricus, Continens Regni Malabarici apud Indos celeberrimi omnis generis Plantas rariores, Latinis, Malabaricis, Arabi-cis, Brachmanum characteribus nominibusque expressis, / per Henricum van Rheede tot Draakestein et Theodorum Janson. ab Alme-loveen; notis adauxit & commentariis illustravit, Joannes Commelinus. 1678-1703（理学研究科生物科学図書室所蔵）
- Elemens de botanique : ou, methode pour connoître les plantes par Pitton Tournefort. 1694（理学研究科生物科学図書室所蔵）
- Amoenitatum exoticarum politico-physico-medicarum fasciculi V : quibus continentur variæ relationes, observationes & descriptiones Rerum Persicarum & Ulterioris Asiae, multâ attentione, in peregrinationibus per universum Orientem, collectæ / ab auctore Engelberto Kæmpfero. 1712（理学研究科生物科学図書室所蔵）
- Familles des plantes / par Michel Adanson. 1763（理学研究科生物科学図書室所蔵）
- Systema naturæ per regna tria naturæ, secundum classes, ordines, genera, species, cum characteribus, differentiis / Caroli a Linné. tomus 2. Editio Duodecima. 1767（理学研究科生物科学図書室所蔵）
- Natuurlyke historie of uitvoerige beschryving der dieren : planten en mineraalen, volgens het samenstel van den Heer Linnæus / by Carl von Linné; M. Houttuyn. 1773-83（理学研究科生物科学図書室所蔵）
- Mediorum chymicorum non ultimum : conjunctionis primum, appropriatio, jam in argenti cum acido salis communis combinatione, experimento novo / D. Johannes Friedericus Henkel. 1727（理学部中央図書室所蔵）
- Mineralogie der Vulkane, oder: Beschreibung aller durch die unterirrdischen Feuerausbrüche hervorgebrachter oder ausgeworfener Substanzen / vom Herrn Faujas de Saint-Fond. 1786（理学部中央図書室所蔵）
- Neue Theorie von der Entstehung der Gänge : mit Anwendung auf den Bergbau besonders den freibergischen / von Abraham Gottlob Werner. 1791（理学部中央図書室所蔵）
- Die Vulkane : alterer und neuerer Zeiten / Franz von Beroldingen. 1791（理学部中央図書室所蔵）
- Forster, Johann Reinhold. "Beobachtungen und Wahrheiten nebst einigen Lehrsätzen : die einen hohen Grad von Wahrscheinlichkeit erhalten haben : als Stoff zur künftigen Entwerfen einer Theorie der Erde." 1789. Hoffmann, Johann Christian. "Praktische und gründliche Anweisung auf eine leichte und wohlfeile Art gute Elektrisirmaschinen zu bauen, mit einem dazu neuerfundenen Reibzeug von gespanntem Taffet." 1798（理学部中央図書室所蔵）

平成23～24年度にはテーマ「博物学」に加え、「地図地理」「仏典」「文学」「奈良絵本」をテーマとする資料合計36点98冊の資料を修復しました。これらはテーマごとに順次、公開する予定です。

上記の内、京都大学貴重書画像Webサイトで全文をご覧いただける資料があります。下記をご覧ください。
<http://edb.kulib.kyoto-u.ac.jp/exhibit/index.html>

監修／ 永益 英敏（京都大学総合博物館准教授）
解説／ 天文地理と湯川博士 小沼 通二（慶應義塾大学名誉教授、元京都大学基礎物理学研究所助教授）
地質鉱物学 松岡 廣繁（京都大学理学研究科地球生物圏史講座助教）
デュフォンの博物誌 杉山 武敏（元京都大学医学研究科教授）
高橋 義人（京都大学名誉教授）*パネル解説
植物学 永益 英敏（京都大学総合博物館准教授）
展示指導／ 西山 伸（京都大学文学部文書館教授）

平成25年10月15日発行 編集・発行 京都大学図書館機構

〒606-8501 京都市左京区吉田本町 <http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/>

（表紙画像 Reede tot Drakestein, Hendrik van, "Hortus Indicus Malabaricus"より）